

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>毎年評価員からご指摘を頂いた事項に関しては、ホーム全体で改善策を検討し、取り組んでいる。例、日めくりカレンダー、マニュアル作成など</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議に関しては、ホーム活動全般を報告しているので、その意見を聞く場となっている。</p>	<p>○</p> <p>意見をもっと活発にもらえる様に働きかけたい</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村へは、運営推進会議の他に行事のお知らせやお誘いなどを行うことで積極的に伝える機会を設けている。又、ホーム便りなどについても送付を欠かさず、サービスが向上できるように取り組んでいる。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護利用者4名、成年後見人制度利用者1名と、個々に必要な場合は十分に活用している。又、研修にも参加している。</p>	
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止については、マニュアルあり、勉強会などで職員の教育としても活用されている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>臨機応変に職員の人数調整は行われている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はほぼなく定着している。やむおえず交代がある場合においても、周囲の職員はなじみの職員となるようにしている。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の職員の能力に合わせ、法人外の研修等を受けてもらっている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症を考える会に所属しており、他事業所との交流の場を設けている。そこで、他事業所との情報交換を元にサービスの質の向上へつなげるよう取組んでいる。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個別に話を聞いたり、年間の研修内容の中に組みこむなど、ストレス軽減に関しての取り組みをしている。又、困っていることシートなどをつくり、時にはスタッフの困っていることを解決するような機会も作っている。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフには、カンファレンス、モニタリング時を利用し、職員の努力の成果などを評価している。又、「毎月のきづき」シートを通して、介護に対する、楽しさややりがいを持てるような指導をする中で個々が向上心を高められるような配慮をしている。(給与面にも反映されている。)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面談から入居に至るまでのやりとりの中で聞き出している他、契約の際はサービス計画書の第1表に希望を直接書いてきて頂くなどの配慮をしている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談者に必要なサービスが本当にグループホームであるか常に考えている。個々にあったサービスの紹介は必要に応じて行っている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の周囲の人からの聞き取りなどを重視し、アセスメントしている。状況を見ながら、日々観察のもと毎日のカンファレンス時に変化とケアについて相談しながら馴染める空間づくりにこころがけている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>個々の入居者の得意分野を生かしたプランを作成している。職員が教えてもらったり、互いの相談ごとをする場面などもあり、一方的な介護をおしつけるような場面はない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、プラン更新時期には家族と一緒に家族のできる事や、ホーム側でできることなどを一緒に考えている。ホーム側が一方的な介護をするよりは、家族も一緒に介護していると実感していただきたいと考え、日々家族と相談をしている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会などホームの行事に参加してもらう機会を設けている他、ホーム便りを通じ個々の利用者の状況を伝えることで、利用者の思いなどを伝えるようなアプローチもしている。又、家族の不安なども職員と一緒に考えるよう相談にのっている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話したいときにいつでもかけられるように支援している。又、利用者との会話の中から連絡を取りたい方などを引き出し、手紙や、年賀状などを利用し、関係が継続されるよう支援している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士が自然に一緒に過ごせるよう過ごし場所などの工夫をしている。他利用者との輪に入れない利用者にかんしては、職員と一緒に過ごしたり、一緒に他利用者で過ごす時間を設けている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	身よりのない利用者などの、権利擁護事業利用の仲立ちをしたり、サービス利用終了後も必要である関わりや手助けを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>モニタリング前のアセスメント時には、必ず聞き取りをしている。本人からの聞き取りが困難な場合は、生活歴や、性格を元に家族の情報を元に考えている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族、本人の会話の中から聞き取りをしている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日勤～夜勤を通し、業務日誌、介護記録をもとに現状の把握をしている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>モニタリング時には、状況把握と職員それぞれのアイデアを出し合っている。又、家族にも必ず要望や、気になることをききだし、プランに反映させている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個々の状況変化時は、その時々に合わせてプランを作成している。その他は、3～6か月に1回のプランを見直している。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録に必要な情報が記載されるように、サービス計画書の番号が記載されるようになっている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ショートステイなどもホームとしては、できる体制にあるが、実際に現在まで利用されたかた方はいない。家族と一緒に泊まりたい、食事を一緒に食べたいなどの要望などにはいつも対応できている。</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>身元引受人のいない方に関しては、希望に応じて民生委員の方と面会したりしている。必要があれば、いつでも協力していただけるよう支援している。</p>		
38	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>入浴困難な方が医療保険適応のデイサービスを利用できないかなど、必要に応じて他の事業所や、ケアマネジャーと相談している事もある。</p>		
39	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>必要に応じて地域包括支援センターと協力をしたり、権利擁護事業の活用なども行っている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的には、本人や家族の希望である。納得の得られる病院へかかる事で安心されていると思われる。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師へ、認知症の症状などについては、相談している。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護師が日常の利用者の健康管理をしてくれている。又、そのホームの看護師の指示を受けながら、かかりつけの病院の看護師などからのアドバイスも受けたりする。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時には、医師又は看護師へホームの入院時に対する既定などを知らせ、利用者の状態についての情報交換をしながら、経過を観察する方法をとっている。更に、家族へも安心していただけるよう、入院時は密に連絡をとっている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における方針については、入居時とその時が来たと考えられるときにマニュアルを元に話し合いを行っている。ホームでできること、病院でできること、家族でできる事など各々で協力する体制に心がけている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の変化を見極めてその時々でかかりつけ医と相談したり、家族と相談したりしている。今後の変化が予測された時点で家族との話し合いを行い、プランにも反映させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>自宅へ帰る場合は、安心して退居する前からケアマネジャーを紹介したり、情報の共有をしながら、ダメージを防ぐように配慮している。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人の声掛けには十分プライバシーに配慮している。記録に関しては、利用者の上に置いたりせず、気にならないよう配慮している。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者のわかる力に合わせ、説明方法や内容を配慮している。買い物へ一緒に出かけたり、食べたい物の聞き取りをしてメニュー作成していたりと思いや希望を表現しやすい環境づくりを心がけている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、入浴、睡眠については、日常的に本人の意向を聞き、ケアをしている。柔軟な個々の生活リズムが尊重されている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>値段や、時間、などの情報を利用者に教え、美容院を選択している。又、定期的にオシャレをする場面を外出や、行事で設けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の聞き取りをしながら、メニューを作成している。又、食べたい時間に食べていただいたり、食事の手伝い、味見をしてもらうなどの工夫もしている。行事の時には、バイキングをしたり、外食なども行っている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつにおいては、本人の好みを一緒に選んでお出ししたりしている。又、ホームのおやつではなく、自分でおやつを購入して食べられるような支援も行っている。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	計画書をもとに、利用者個人の排泄パターンに合わせて対応している。状態変化時にも職員、家族との話し合いのもとその時々に合わせて対応を考えている。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日はあるが、個々の入りたい時間や、日を聞いて、良い日、時間に入浴している。又、温泉の入浴剤をその日その日でその利用者のその日の好みで使えるよう楽しみの支援をしている。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、夜間問わず一人ひとりの眠りのペースを配慮している。時だから起きましょう、時だから眠ってくださいというような対応はしていない。不眠の傾向にある方に関しては、足を温めたり、ホットミルクを提供したり、職員と話をして安心できるように対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の持つ得意な役割がある。(茶碗拭き、文字を書く、歌を歌う、挨拶分を考える、など)行事などの時も、ここの得意な分野を選んで、必ず役割をもった参加ができるように支援している。		


	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々の管理能力に応じて、できる限り現金を本人にもっていただいている。家族の方とお金を持つ大切さを知らせ、十分話した中で、なくなる可能性もあることを納得していただければ、少なくとも小遣い程度をもっていただいている。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>冬期はなかなか難しいが、暖かい日はなるべく個々の希望をとって外出して頂いている。</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>外出に関する希望をとり、普段なかなか行けないところへもできる限りいけるように支援している。家族についても希望があれば、いつでも対応可能である。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に応じて行っている。又、希望がなくても言えない思いをなるべく引き出せるよう、職員間で話し合いを行い、利用者へ職員からすすめてみることもある。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>居心地よく暮らせるように、面会中の場所を自由に選んで頂いている。又、お茶をだしたり、利用者の近況情報を伝えたりして、いつでも来やすい雰囲気づくりに努めている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>拘束マニュアル作成のもと、拘束しないケアを実施している。それについて、定期的に職員への教育も行っており、理解に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関前は、交通量の多い道路に面しているため、安全対策として鍵はかかっているが、外へ出たい際は鍵をかけるようにしている。又、ホーム内のエレベーター前のドアを玄関と考えており、そのドアは鍵はかけていない。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在の確認、把握は行っている。職員間で声をかけながら、自由に暮らせる空間を提供している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の利用者の状態により、全員一律に物品をなくしてはいない。理解度の高い利用者は、はさみを自己管理したりりながら、安全に保管できるように、確認している。できる能力、残っている能力を最大限に活用するよう支援している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故においては、個々に応じてリスクが違う為プランに主にもりこんでいる。又、職員間で事故についてのマニュアルを元に勉強会を定期的に行い知識向上を図っている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間の社内研修に応急手当、早期対応などを取り入れ職員教育を行っている。又、マニュアルをもとに振り返り勉強会も実施している。		今後も定期的に行っていきたい
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	避難訓練を定期的実施している。夜間を想定した訓練も行っている。又、その様子を運営推進会議などで報告、話し合いをし、いざというときは協力して頂きたい旨を伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々のリスクについては、プランを元に家族とそのつど話し合いを行っている。また、転倒の危険性のある方についても拘束マニュアルを元に話し合いを行い一緒に対策を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々に応じてのバイタル測定を行ったり、異変の早期発見に努めている。その際は、介護記録をもとに情報の共有をし、医療機関との連携を図るなどの対応に努めている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、医療機関、薬剤師、看護師の指示のもと観察ポイントを各職員へ周知できるよう申し送りを行っている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘傾向にある方については、なるべく飲食物で工夫したり、他利用者より運動を多くするよう働きかけている。ケアプランなどに、自然の活動の中でも動きの多いものを取り入れたりするなどの工夫も行っている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの自立している方については、定期的に不具合がないか聞き取りをしている。又、食事時の租借の状況や、残差物の観察にも注意している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方については、水分チェック表を用いての水分管理などを行っている。量や質については、志向調査、アンケートを通してなるべく個別の対応を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症においては、マニュアルが作成されている。流行時期前に職員間で勉強会を通じ、確認している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理については、マニュアルに沿って行っている。食器はや調理道具は、消毒を行い、食材の取扱についても、時期をみながら、安全な食材を選びメニューに取り入れている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の場所は分かりづらいかもしれないが、夏場を花は飾るなどの工夫を行っている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については、利用者と一緒に季節の飾り付けを行うなど、職員の一方的なイメージにならぬような配慮をしている。一緒に行くことで、職員から感じない意見が出てくることもあり、居心地の良さを更に追及している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士と一緒に過ごせるような工夫を行っている。共有空間の過ごし場所を主に3つに分けており、その時々で自由に行き来できるような工夫を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に必ずそのように説明をし、居心地の良いお部屋づくりを進めている。又、入居してからも職員と利用者との話の中から望むものを聞き取り必要であれば家族と相談し、居心地よく過ごしていただけるよう支援している。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気は定期的に行っている。又、各居室は1日を通して、温度表のもと温度チェックをしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりなどあり、安全対策はしている。なるべく自立という意味では、ハード面より個々の身体能力の維持や、向上に努めている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>わかる力、という残存機能については、社内研修でも行い、混乱や、失敗を防ぎ、自信の持てる、混乱しない活動や、方法を取り入れるよう日々カンファレンスを行い検討しケアにあたっている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>街中のビルの中にホームはあるが、周囲を散策したり、花を飾ったりなど楽しむ場面もある。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々のケアの質、利用者の生活の質の向上の為、職員の教育、研修等に力を入れている、又、資格取得者も多くおり、看護師、ケアマネージャー、介護福祉士、認知症ケア専門士など多くの専門的視点から利用者の日常の生活をサポートできるように取り組んでいる。透析患者も多く受け入れ、強い医療が日々必要な方でも日々の生活に楽しみや、生きがいを持てるような支援を考えケアにあたっている。今年度は、特に、その人の持っているちから、得意なこと、できる事を中心に考え、レクリエーションや行事は利用者が計画、準備から参加することを大切に、日々の生活から自信を持つことの大切さが生き生きとした暮らしにつながるということを職員と一緒に感じたことと思われる。今後も、ホームの取り組みとしては、日々医療が必要な方であっても、楽しみや生きがいを感じていただく中、残りの人生を歩んでいく支援をしていきたいと考えている。